

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年3月5日(2009.3.5)

【公表番号】特表2005-535396(P2005-535396A)

【公表日】平成17年11月24日(2005.11.24)

【年通号数】公開・登録公報2005-046

【出願番号】特願2004-528580(P2004-528580)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

A 6 1 F 2/28 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/56

A 6 1 F 2/28

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年12月26日(2008.12.26)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

2 個の装置の組み合わせからなる分離緩衝装置 2 であって、
 小児骨用の分離器である第一の装置 3 は、
 第 1 の端部を有する第 1 ロッド部材と、
 第 2 の端部を有する第 2 ロッド部材と、
 第 1 の制動部材とからなり、
 緩衝器である第 2 の装置 1 は、
 前記第 1 ロッド部材と前記第 2 ロッド部材とを接続し、かつ患者の脊椎が直線になるように前記第 1 の端部と前記第 2 の端部の間隔を調整する調整手段 3 0 0 とからなる分離緩衝装置 2 において、
 前記第 1 の制動部材は、
 椎骨への連結手段 2 3 2 を備えるロッド 1 1 0 を一端に有する剛性の手段 1 3 0 と、
 前記剛性の手段内に配置された第 1 粘弾性部材 1 2 1 と、
 前記剛性の手段内に配置された第 2 粘弾性部材 1 2 2 とからなり、
 前記第 1 ロッド部材の第 1 の端部は、前記第 1 粘弾性部材と前記第 2 粘弾性部材との間に配置されたピストンヘッド 3 7 0 と、
 を備えることを特徴とする分離緩衝装置。

【請求項 2】

前記第 1 ロッド部材及び第 2 ロッド部材が、片側に鋸歯状の歯列を備えることを特徴とする請求項 1 に記載の分離緩衝装置。

【請求項 3】

前記第 1 ロッド部材及び第 2 ロッド部材の少なくとも 1 つが直線状部材であり、前記第 1 ロッド部材及び第 2 ロッド部材のうちのもう一方が曲線状部材であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の分離緩衝装置。

【請求項 4】

前記第 1 ロッド部材及び第 2 ロッド部材が、曲線状部材であることを特徴とする請求項

1又は2に記載の装置。

【請求項5】

前記第2ロッド部材の一端に肋骨と係合する連結手段231を備えることを特徴とする請求項1乃至4のいずれかに記載の分離緩衝装置。

【請求項6】

2個の装置の組み合わせからなる分離緩衝装置2であって、

小児骨用の分離器である第一の装置3は、

第1の端部を有する第1ロッド部材と、

第2の端部を有する第2ロッド部材と、

第1の制動部材とからなり、

緩衝器である第2の装置1は、

前記第1ロッド部材と前記第2ロッド部材とを接続し、かつ患者の脊椎が直線になるように前記第1の端部と前記第2の端部の間隔を調整する調整手段300とからなる分離緩衝装置2において、

前記第1の制動部材は、

椎骨への連結手段232を備えるロッド110を一端に有する剛性の手段130と、

前記剛性の手段内に配置された第1粘弾性部材121と、

前記剛性の手段内に配置された第2粘弾性部材122とからなり、

前記第1ロッド部材の第1の端部が、前記第1粘弾性部材と前記第2粘弾性部材との間に配置されたピストンヘッド370とを備え、

前記第2ロッド部材は、

一端に第2の制動部材を備え、

前記第2の制動部材は、

肋骨と係合する連結手段231を備えるロッド110を一端に有する剛性の手段130と、

前記剛性の手段内部に配置された第1粘弾性部材121と、

前記剛性の手段内部に配置された第2粘弾性部材122とからなり、

前記第2ロッド部材の第2の端部が、前記第1粘弾性部材と前記第2粘弾性部材との間に配置されたピストンヘッド370と、

を備えることを特徴とする分離緩衝装置。